

自己評価報告書

平成23年4月14日現在

機関番号：62608
 研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20242006
 研究課題名（和文）日本古典籍総合目録における隣接領域の受容拡充と検索機能の整備のための研究
 研究課題名（英文）The study on the expansion of the reception of the adjoined domains and the service of the function of the search in the National Institute of Japanese Literature's Union Catalogue of Early Japanese Books
 研究代表者
 鈴木 淳（SUZUKI JYUN）
 国文学研究資料館・研究部・教授
 研究者番号：40162953

研究分野：日本古典文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本古典籍、和古書、分類、和刻本、検索システム。

1. 研究計画の概要

(1) 分類標目の「和古書所蔵目録」への適用実験

国文学研究資料館所蔵の和古書約1万2千点の各書目について「日本古典籍分類表」の分類語の適用を試みながら、旧来の分類に修正を加える。

(2) 和刻本の調査と「和刻本分類表」の考案

和刻本について調査を行い、新たに「(仮)和刻本分類表」を考案し、館蔵和刻本への分類語の適用を試みる。

(3) 書籍以前の資料の整理と分類

書籍以前の資料として、北野克コレクションの軸物類約300点を対象に調査を進め、整理、分類を行う。

(4) 検索結果の分析と情報提供のシステム構築

「日本古典籍分類表」および「日本古典籍総合目録」DBの分類に基づく和古書データベースの検索結果を分析し、レコード分布を情報提供するシステムを構築する。

(5) 研究会の実施

各担当者の経過報告を含めた研究会を年4回ほど実施する。

(6) 海外の研究組織への研究参加、また所蔵機関の資料調査

E A J R S年次会に参加し、情報を発信する。また海外の日本古典籍所蔵機関の資料調査を実施する。

2. 研究の進捗状況

(1) 和古書1万2千点についての「日本古典籍分類表」による分類標目の付与については、小説類を除いてほぼ終了している。これ

によって、和古書1万点について、エクセルを用いて分類ごとに表示することが可能になった。

(2) また「日本古典籍分類表」と「日本古典籍総合目録（国書総目録）」による分類の対照実験も実施した。その結果、シソーラスの体系によって裏打ちされた「日本古典籍分類表」の分類項目による検索の実効性に見通しが付けられた。

(3) 和刻本については、最終年度さらに調査、研究を進め、和刻漢籍あるいは準漢籍とされる分野の書籍について、四庫分類に替わる独自の分類表を、「日本古典籍分類表」に即して作成する予定である。

(4) 書籍以前の資料についても、最終年度に分類と整理を完了させる。これについては、国文学研究資料館所蔵の北野克旧蔵の軸類を中心とする書画関係コレクションを対象に取り上げ、未公開資料の公開促進という付加価値も視野に入れて調査を進めている。

(5) 研究会で、日本古典籍総合目録（DB）と「日本古典籍分類表」による分類との共存の可能性について、具体的な議論が活発になされ、その筋道が付けられた。

(6) 従来、分類上の定見がないに等しい、絵本の分野について、国内より海外により多く質の高い日本絵本資料が集められているという事情を踏まえ、海外所蔵機関の絵本資料調査研究を進めた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 本研究の核を成す、和古書1万2千点に対する「日本古典籍分類表」による分類標記の付与がほぼ終了し、また、その分類の実効性について見通しが立ったため。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 和古書1万2千点に対する「日本古典籍分類表」による分類標目付与の結果について、館内外でアンケートを実施し、その適正と効用の観点から評価を受け、必要に応じて修正を図る。

(2) EAJRSの年次会その他、海外の発表機会を利用して、「日本古典籍分類表」やそれによる分類結果について報告し、評価を受ける。

(3) 実用化を図り、従来の分類と「日本古典籍分類表」による分類を対照できるシステムを稼働させる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

① 牧野悟資、「朱楽菅江一門考—『狂歌大体』を中心に—」、『都大論究』、査読有、47号、2010年、41～53頁

② 鈴木淳、「北尾重政画『花鳥写真図彙』考—浮世絵師による花鳥画絵本の試み—」、『かがみ』、査読無、39号、2009年、83～118頁

③ 伊藤鉄也、「海を渡った古写本『源氏物語』の本文—ハーバード大学蔵「蜻蛉」の場合—」、『日本文学研究ジャーナル』、査読無、3号、2009年、103～132頁

④ 陳捷、「日本における宋版との出会い」、『漢字文化三千年』(臨川書店)、査読無、2009年、343～365頁

⑤ 金田房子、「前書の機能」、『俳句の詩学・美学』(角川学芸出版)、査読無、2009年、156～168頁

[学会発表] (計3件)

① 古瀬蔵・和田洋一・小島歩、「国文学研究資料館の公開データベース」、EAJRS第21回年次会議、2010年9月1日、イタリア、ジェノバ

② 大内英範・伊藤鉄也、「日本古典籍分類表の活用とコーニツキー版ユニオンカタログの新展開」、EAJRS第20回年次会議、2009年9月17日、イギリス、ノリッジ

③ 増井ゆう子、「日本古典籍総合目録データベースの現在と今後」、EAJRS第19回年次会議、2008年9月17日、ポルトガル、リスボン

[図書] (計2件)

① 蘆庵文庫研究会(神作研一他)編、青裳堂書店、『蘆庵文庫目録と資料』、2009年、802頁

② 鈴木淳・マクヴェイ山田久仁子編著、八木書店、『ハーバード燕京図書館の日本古典籍』、2008年、325頁